令和８年度　授業改善推進プラン

＜教科名　**技術科**　＞

小平市立小平第五中学校

【生徒の実態】

	第１学年	第２学年	第３学年
学力分析	・授業に積極的に取り組む生徒が多く、ペアワークなども協力して授業に参加できている。 ・初めての期末考査では、テスト勉強に取り組めている生徒は少ない様子が得点に表れている。 ・設計図を読み解けない生徒がいる。	・多くの生徒がしっかり取り組んでいるが、反応が少ない。情報分野、特にスプレッドシートの取組に苦手意識を見せ、答えをすすぐ求め、理解できないとあきらめる生徒がいる。	・授業に集中し、よく取り組んでいるが発言などが少ない。 ・記録やメモをとる生徒が多い。期末考査はよくできている生徒が多かった。
学習状況	・１学期は道具の使い方や図の書き方などに取り組み、製作に入っている。製作工程を説明し、自主的に見通しをもって計画的に製作できる力を身に付けられるように取り組んでいく。	・スプレッドシートを生活に生かせるように利用できる関数を伝え、実践させた。 ・情報とモラルや情報リテラシーについて考えさせ、個々の考え方や価値観の違い、また、身近なトラブルが潜んでいることを学習した。	・スプレッドシートを生活に生かせるように利用できる関数を伝え、実践させた。 ・計測制御のプログラムを作成に向け、コンピュータ操作を実践した。 ・情報とモラルや情報リテラシーについて考えさせ、個々の考え方や価値観の違い、また、身近なトラブルが潜んでいることを学習した。
生徒アンケートの結果より	・パワーポイントでめあてを提示していたが、生徒にしっかり伝わっていない様子があり「めあての提示・明確性」に課題があるようである。 今学期からは、めあてや先を見通した計画性、評価のポイントなどをあらかじめ提示し授業展開する。	・パワーポイントでめあてを提示していたが、生徒にしっかり伝わっていない様子があり「めあての提示・明確性」に課題があるようである。 今学期からは、めあてや先を見通した計画性、評価のポイントなどをあらかじめ提示し授業展開する。 ・2 学期初めに 1 学期の復習に時間をかけ、理解度をあげられるように実践する。	・各項目で『肯定的な評価』と感じている生徒は、他学年より少ないものの、おおむね分かりやすい工夫があると評価がある。 授業時間数が少ないため、生徒にかかわる時間が限られてしまうが、少ない時数の中で、内容を考え、分かりやすく伝える工夫をする必要があると考える。

【授業改善の手だて】

	第１学年	第２学年	第３学年
改善計画	・手順検討の重要度や組み立て手順を伝えるために、一斉授業の中で時間をとって考えられるように計画しておく。	・2 学期初めに 1 学期の復習に時間をかけ、理解度をあげられるように実践する。 ・生物育成は、クラスが多いため学年をクラスごと2~3グループに分け、時期を変えて実践する。また、昼休みの時間を利用して生物の育成を進める。	・２学期始めに、基礎基本を伝え、プログラミングの検討ができるようにする。作業の前にプログラミングの座学が終わるように計画する。
評価方法	・評価のポイントを作業工程説明時に伝え、意識させながら取り組めるようにする。失敗した場合の手だても伝え、解決できるように指導していく。自分で組立ての手順を検討し、その手順をもとに製作品を完成させる。その過程と完成した製作品で評価していく。	・情報の領域では、学んだ力を発揮し社会で使えそうなファイルの制作を行い、実用性を評価する。 ・椎茸栽培に関しては管理技術として、観察の記録の提出と栽培物に対しての具体的な作業の取り組みや今後の見通しの記述などで評価をしていく。 ・ラジオ作成に関しては電子基板の完成やはんだ付けの様子、工具の使い方などの評価を行う。	・オーロラクロックの製作では、はんだごての使い方や電子基板の完成状況で評価を行い、プログラミングでは問題発見とその解決ができるようなアルゴリズムであるかを読み取り評価していく。